



校長 富長 宗生

学校 教育 スローガン

学び さらさら 心 うきうき 行い どんどん

新年度のスタートから一週間後の17日は、午後から“春の嵐”となりました。急速に発達した低気圧の影響で全国各地で今年一番の大雨になり交通機関も乱れました。

翌朝になって校庭を見ると、やはり桜はすべて散っていました。今年は花もちがよくて、クラス写真を美しい桜をバックに撮ることができるので喜んでいましたが、とうとう散ってしまいました。“春の嵐”の襲来で、いよいよ本格的な春の到来がやってまいりました。

この4月に逝去された大岡信さんは、中学校2年国語の教科書(光村出版)に『言葉の力』というエッセイを書かれていました(います?)。教師になって間もない頃にこの文章に出会って心打たれました。読んだ覚えのある保護者の方も多くいらっしゃると思います。

散った桜の花びらが校庭のアスファルトに一面に敷き詰められている見事さに驚き、思わず登校してきた子どもたちに「きれいだよ」と声を掛けているとき、大岡さんの桜を題材にしたこの『言葉の力』の内容が思い出されてきました。

「おはようございます」「ありがとう」などの言葉の一語一語の持っている「大切さ」や「重さ」といったものを考えさせられるエッセイです。子どもたち一人ひとりが実感し体感を通して、美しい言葉、正しい言葉を獲得し身につけてくれることを願います。

大変長い引き合いで恐縮です。なお、文中の志村ふくみさんは近江八幡市のご出身です。

人はよく美しい言葉、正しい言葉について語る。しかし、私たちが用いる言葉のどれをとってみても、単独にそれだけで美しいと決まっている言葉、正しいと決まっている言葉はない。ある人があるとき発した言葉がどんなに美しかったとしても、別の人がそれを用いたとき同じように美しいとは限らない。それは、言葉というものの本質が、口先だけのもの、語彙だけのものではなくて、それを発している人間全体の世界をいやおうなしに背負ってしまうところにあるからである。人間全体が、ささやかな言葉の一つ一つに反映してしまうからである。



京都の嵯峨に住む染織家志村ふくみさんの仕事場で話していたおり、志村さんがなんとも美しい桜色に染まった糸で織った着物を見せてくれた。そのピンクは淡いようでいて、しかも燃えるような強さを内に秘め、はなやかで、しかも深く落ち着いている色だった。その美しさは目と心を吸い込むように感じられた。

「この色は何から取り出したんですか」

「桜からです」

と志村さんは答えた。素人の気安さで、私はすぐに桜の花びらを煮詰めて色を取り出したものだろうと思った。実際はこれは桜の皮から取り出した色なのだった。あの黒っぽいごつごつした桜の皮からこの美しいピンクの色が取れるのだという。志村さんは続いてこう教えてくれた。この桜色は一年中どの季節でもとれるわけではない。桜の花が咲く直前のころ、山の桜の皮をもらってきて染めると、こんな上気したような、えもいわれぬ色が取り出せるのだ、と。

私はその話を聞いて、体が一瞬ゆらぐような不思議な感じにおそわれた。春先、間もなく花となって咲き出でようとしている桜の木が、花びらだけでなく、木全体で懸命になって最上のピンクの色になろうとしている姿が、私の脳裡にゆらめいたからである。花びらのピンクは幹のピンクであり、樹皮のピンクであり、樹液のピンクであった。桜は全身で春のピンクに色づいていて、花びらはいわばそれらのピンクが、ほんの先端だけ姿を出したものにすぎなかった。

考えてみればこれはまさにそのとおりで、木全体の一刻も休むことのない活動の精髓が、春という時節に桜の花びらという一つの現象になるにすぎないのだった。しかしわれわれの限られた視野の中では、桜の花びらに現れ出たピンクしか見えない。たまたま志村さんのような人がそれを樹木全身の色として見せてくれると、はっと驚く。

このように見てくれば、これは言葉の世界での出来事と同じことではないかという気がする。言葉の一語一語は桜の花びら一枚一枚だといっていい。一見したところぜんぜん別の色をしているが、しかし、本当は全身でその花びらの色を生み出している大きな幹、それを、その一語一語の花びらが背後に背負っているのである。そういうことを念頭におきながら、言葉というものを考える必要があるのではなからうか。そういう態度をもって言葉の中で生きていこうとするとき、一語一語のささやかな言葉の、ささやかさそのものの大きな意味が実感されてくるのではなからうか。美しい言葉、正しい言葉というものも、そのときはじめて私たちの身近なものになるだろう。





ご家庭(保護者)と 学校(担任等)の間に 太いパイプ(連携)を! 皆様、強力タッグを組みましょう!

保護者の皆様、平日ではありますが、5月10日(水)の午後はぜひ学校にお越しください。日程は以下の通り。



- ①授業参観 14:00 ~ 14:45
- ②PTA総会 14:55 ~ 15:40
- ③学級懇談会 15:50 ~ 16:30

①では我が子の新しいクラスでの様子をご覧になってください。②では簡単に本校の教員紹介も行います。③は、新担任がクラスの方針や様子についてお話しします。

さて、今年度も次の内容をこの5月号に再掲載させていただきます。

PTAとは、ご承知の通り Parent-Teacher Association の略で、その意味と目的は、「児童・生徒のよりよい教育環境の醸成を旨とする保護者と教師(教職員)によって構成される教育団体」(『日本大百科全書』より)です。つまり、PTAとは保護者と教師の会です。保護者同士の情報交換や連携・親睦だけでなく、同じ子どもを家庭・学校という別々の環境で育てる親と教師の連携を深めるのが一番の目的と言えます。

では、どうすればよいのでしょうか。

私は、学校と家庭が信頼し合うこと、言い換えれば、保護者と教師が仲良くなることだと思っています。つまり、これがPTA組織の最大のねらいだと確信しています。PTA活動に参加すれば互いに気軽に話す機会が増えます。また、学校の「敷居」も低くなると思います。すると、学校や家庭での子どもの様子が互いによく分かります。それが互いの信頼づくりとなり、子どもにも大きくプラスします。

どうか気楽な気持ちで学校にぜひお越しください、担任にお声かけください。

5月行事

- 1日(月) 家庭訪問②13:40~
5年聴力検査
- 2日(火) 家庭訪問③13:40~
3年聴力検査
- 3日(水) <憲法記念日>
- 4日(木) <みどりの日>
- 5日(金) <こどもの日>
- 8日(月) 委員会活動 2年聴力検査
- 9日(火) 暗唱ラリー 1年聴力検査
- 10日(水) 授業参観(5校時)
PTA総会 学級懇談会
- 11日(木) きらうきどんの日
ラジオ体操講習会
- 12日(金) 6年校外学習
- 15日(月) 30周年記念航空写真
クラブ活動
- 16日(火) 【水曜校時】 全校5校時終了後下校
お話タイム 2・3・5年校医検診
- 17日(水) 【火曜校時】 3~6年は6校時まで
1年生を迎える会
- 18日(木) 5年田植え体験 移動図書館
- 19日(金) 5年田植え体験予備日 食育の日
1・4・6年校医検診
PTAリーダー会19:30~
- 20日(土) ファミリー読書(~21日)
- 22日(月) クラブ活動
- 23日(火) 暗唱ラリー 体力テスト
- 24日(水) 体力テスト(予備日) なかまタイム
- 26日(金) 交通安全教室
- 29日(月) クラブ活動
- 30日(火) 全校読書 ゴミゼロの日の取組
- 31日(水) 児童集会



※毎週火・金曜日はPTAによる校区内パトロール



【桜の木の下で 1年1組】



【桜の木の下で 1年2組】